

地域ケア個別会議から地域づくりへの展開

北海道高齢者保健福祉課

北海道介護予防活動普及展開事業



本動画留意事項につきまして、
動画内で使用されている全てのテキスト、音声、音楽、画像、
映像等を無断使用、複製、改編したり販売や貸与することを
禁止します

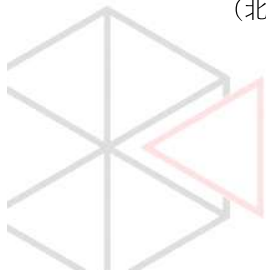
北海道保健福祉部
福祉局高齢者保健福祉課

令和7年度北海道介護予防活動普及展開事業普及啓発セミナー動画 地域ケア個別会議から地域づくりへの展開 — はじめに —

2025年12月

一般社団法人Wellbe Design 篠原 辰二

(北海道介護予防活動普及展開事業アドバイザー)



介護予防活動普及展開事業について



ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 介護・高齢者福祉 > 介護予防

福祉・介護

介護予防

- 地域がいまいき 集まろう！通いの場
- 1 介護予防について
- 2 介護予防活動普及展開事業（平成28年度～）
- 3 健康寿命をのぼそう！アワード（介護予防・高齢者生活支援分野）
- 4 介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について
- 5 介護予防マニュアル
- 6 介護予防・地域ささえあいサポート拠点整備モデル事業
- 7 過去の事業等
- 8 リンク

研修等の動画・資料
マニュアル・手引き がDLできます

地域包括ケアシステムの強化のための
介護保険法等の一部を改正する法律
(H30年4月施行)



自立支援・重度化防止に向けた保険者機能の強化の取組を含め
地域包括ケアシステムの深化・推進

介護保険法における地域ケア会議の位置づけ

(会議)

第115条の48 市町村は、**第115条の45第2項第3号に掲げる事業**の効果的な実施のために、**介護支援専門員、保健医療及び福祉に関する専門的知識を有する者、民生委員その他の関係者、関係機関及び関係団体**（以下この条において「関係者等」という。）**により構成される会議**（以下この条において「会議」という。）**を置く**ように努めなければならない。

2 会議は、厚生労働省令で定めるところにより、要介護被保険者その他の厚生労働省令で定める被保険者（以下この項において「支援対象被保険者」という。）への**適切な支援を図るために必要な検討を行うとともに、支援対象被保険者が地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制に関する検討を行うものとする。**

(以下略)

高齢者支援の充実【個別支援】
▶ **地域ケア個別会議**

社会基盤の整備【地域支援】
▶ **地域ケア推進会議**

地域支援事業の効果的な実施
地域包括ケアのシステム化

第115条の45は
「地域支援事業」



法施行規則に規定される地域ケア会議の検討内容

(会議)

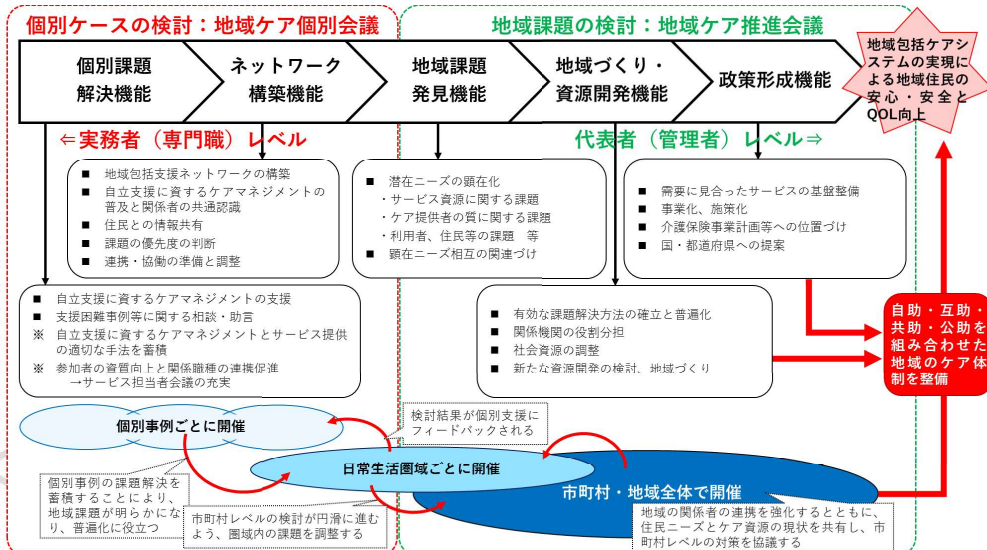
第140条の72の2 法第115条の48第1項に規定する会議は、次に掲げる事項について検討を行うものとする。

- 一 次条に定める被保険者（第4号において「支援対象被保険者」という。）の健康上及び生活上の課題の解決に資する支援の内容に関する事項（次号に掲げるものを除く。）
- 二 指定居宅介護支援等基準第13条第18の2の規定により届け出られた居宅サービス計画に関する事項
- 三 地域における介護の提供に携わる者その他の関係者の連携の強化に関する事項
- 四 支援対象被保険者に共通する課題の把握に関する事項
- 五 地域における介護の提供に必要な社会資源の改善及び開発に関する事項
- 六 地域における自立した日常生活の支援のために必要な施策及び事業に関する事項

個別会議

推進会議

地域ケア会議の5つの機能と展開



高齢者個々への対応を蓄積した中から、地域課題を見出し、地域の関係機関とともに取り組みを協議しながら地域づくりを展開していくという流れ



普及啓発セミナー動画について

令和5（2023）年度

- ・テーマ 自立支援型地域ケア会議の円滑な運営に向けて
- ・内容 口腔・運動・栄養・薬剤に関する専門性の理解と助言の特徴を学ぶ



令和6（2024）年度

- ・テーマ 専門職と協働した自立支援に資する地域ケア会議運営の工夫
- ・内容 登別市・真狩村の事例をもとに、地域ケア個別会議の工夫を学ぶ



令和7（2025）年度

- ・テーマ 地域ケア個別会議から地域づくりへの展開

3年間 視聴可能



セミナーに協力いただいた自治体

京極町

- ・人口 2,738人
- ・世帯数 1,435世帯
- ・高齢化率 35.3%
- ・要介護認定率 13.5%

芽室町

- ・人口 17,639人
- ・世帯数 8,070世帯
- ・高齢化率 31.3%
- ・要介護認定率 20.4%



どちらの自治体も厚生労働省の補助事業を受け、地域包括ケアシステムの強化を行ってきた自治体です。



- 8 -

「つながる」「わかる」「広がる」しくみ

地域ケア会議を

まちづくりのスタートラインへ



めむろ

芽室町役場高齢者支援課

地域包括ケア担当・統括保健師

- 9 -

わがまち芽室町



総人口 17,639人
世帯数 8,070世帯
65歳以上 5,524人
(高齢化率31.3%)
令和7年9月末

高齢者数は令和25年まで増加(5,731人)

高齢化率は令和25年には40.6%になる推計
(第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画)

とちかち平野



スイートコーン生産日本一



ゲートボール発祥の地



- 10 -

わがまち芽室町

高齢者・介護認定者の状況(令和7年9月末)

| | 人数 | 割合 |
|------|--------|--------|
| 要支援1 | 129人 | 11.3% |
| 要支援2 | 161人 | 14.1% |
| 要介護1 | 319人 | 27.9% |
| 要介護2 | 185人 | 16.2% |
| 要介護3 | 154人 | 13.4% |
| 要介護4 | 125人 | 10.9% |
| 要介護5 | 72人 | 6.3% |
| 合計 | 1,145人 | 100.1% |

認定率20.4%

要支援 290人

要介護 855人

●日常生活圏域：1圏域

地域包括支援センター1か所(令和4年度～委託)

- 11 -

地域ケア会議の実施状況・課題

【地域ケア会議の位置づけ】

| 種別 | 実施主体 | 役割 |
|----------|------------|--------------------------------|
| 地域ケア個別会議 | 地域包括支援センター | 高齢者の課題解決に向けて検討すること |
| 地域ケア推進会議 | 町長 | 高齢者の課題解決に向けた検討及び資源開発、政策形成を図ること |

(芽室町地域ケア会議設置要綱より)

●個別会議

(地域包括支援センター)



●推進会議

(高齢者支援課)



- 12 -

地域ケア会議の実施状況・課題

【認識している課題】

●個別会議

(地域包括支援センター)

高齢者のことは、高齢者政策担当・関係機関で考えなくては…という雰囲気

会議は「困った、困った」で終わる

●推進会議

(高齢者支援課)

「開催すること」が目的になっている

同じメンバーの会議が他にも…

組織の縦割り感

解決しない

日常業務・対応に忙しい！

参加が得られない

会議を開催する負担が大きい

個別の問題も地域課題もますます複雑化・潜在化

- 14 -

地域ケア会議の実施状況・課題

【地域ケア会議の開催状況(令和5年度)】

| | 個別会議 | 推進会議 |
|-------|---|---|
| 場所 | 地域包括支援センター | 役場庁舎内 |
| 参集範囲 | <ul style="list-style-type: none"> ★地域包括支援センター職員(3職種) ★高齢者支援課在宅支援係(理学療法士・保健師など) ★公立芽室病院連携室(看護師・MSW) 上記★のほかに、検討ケースに応じて役場関係課職員、担当ケアマネジャー、社協職員、事業所職員等 | 高齢者支援課在宅支援係 社会福祉協議会事務局長 介護福祉施設施設長 地域包括支援センター管理者 訪問看護ステーション管理者 居宅介護支援事業所職員 公立芽室病院MSW |
| 頻度・回数 | 定例開催(水曜日)9時から 合計22回 | 年度内1回 |

認知症高齢者 身寄りのない 障がいの疑いのある
 8050家庭 セルフネグレクト 関連はない 支援困難ケース
 ごみ屋敷 虐待の疑い

- 13 -

地域づくり加速化事業伴走支援

STEP①事業の目的共有・それぞれの取組み理解

他自治体の取組み紹介
KDB(E表)帳票からの読み取り

★アドバイザー
北海道厚生局・北海道・十勝総合振興局

町の事業・関連など意見交換

高齢者支援課(介護保険係・在宅支援係・介護予防係)
健康福祉課・公立芽室病院(地域連携室)
委託地域包括支援センター



町民の暮らし
健康状態
各種調査結果
寄せられている意見
総合事業の概要
介護予防の取組み
相談ケースの困りごと

- 15 -

STEP①事業の目的共有・それぞれの取組み理解

気づき①

地域ケア会議は、個別会議と地域ケア推進会議いずれも実施しているが、それぞれの役割・連動性に課題がありそう

次のステップ①

個別会議の持ち方、その後の推進会議につながる仕組みを見直す必要がある

気づき②

複数の課、系の事業それぞれで丁寧に事業が行われている。課題や目的を共有し連携した取組みがあると良いかもしれない

次のステップ②

地域ケア会議の中で、それぞれの取組みを振り返り、共通する課題を話し合ってみよう！

STEP①事業の目的共有・それぞれの取組み理解

参加者の気づき・感じたこと(一部抜粋)

- ・資源やサービスの整備は進んでいるが、ニーズが多様化していて対応できていないと感じる。
- ・課題を積み重ねて対応策を施策化する部分が弱いと思った。
- ・課が分かれていることでお互いの仕事が認知されないままになっている。こういう会議の場に複数の課が参加できると良いと思った。
- ・今取り組んでいることが話題の中心となりがちだが、より広い視点でとらえることが必要と思った。
- ・課題は積みあがっているの、何か一つでも見直し改善できると良いなと思った。
- ・もっと事業所などとも話し合ったほうが良いかと思う。

STEP② 個別ケア会議の実施と振り返り

①個別ケア会議
(複数の課題を抱えた家族の事例)

②会議手法の振り返り
アドバイザーから助言

進行 地域包括支援センター管理者
出席 公立芽室病院地域連携室・ケアマネ・訪問介護・訪問看護・高齢者支援課職員
傍聴 アドバイザー・北海道厚生局・北海道庁十勝総合振興局

個別会議の持ち方

- 会議の目的設定
- テーマや話し合いのゴール
- 適切な参集範囲
- 記録・ツール活用

推進会議につながる視点

- 本人の能力・自立の度合いを丁寧に整理・検討する
- これまでの支援の振り返りの中で必要な取組みを明らかにする
- 次の会議につながる「あったらいいな」をそれぞれが意見する

STEP②個別ケア会議の実施と振り返り

これまでの個別会議実施状況から課題を考える

令和5年度の開催状況から

個人で記入

個別ケア会議実施経過からの気づき



①同じケースを複数回協議している

解決に至らない？
地域ケア推進会議につなげる必要性は？

(会議運営・しくみ)

②認知症に係るケース検討が多い

認知症が多い？
認知症の診断や治療につながりにくい？
認知症患者さんへの偏見は？

(認知症予防・支援体制)

③本人や家族の抱える課題が複雑

関係する部署や担当者が多い？
これまでに介入するタイミングは？

(情報共有の仕組み・連携)